

松坂屋コレクション（能装束4点）が 重要文化財指定へ

一般財団法人 J. フロントリテイリング史料館が所有する能装束4点が、3月9日（金）に開催された文化審議会の答申を受け、重要文化財の指定を受ける運びとなりましたので、お知らせいたします。



「紺地菖蒲蓮菊桐文様小袖」



「萌黄地紋入格子縞藤文様片身替厚板」



「薄黄地紋入格子鱗文様肩裾厚板」



「茶地紋入格子文様厚板」

松坂屋（現大丸松坂屋百貨店）は、明治時代から積極的に呉服の服飾意匠の開発とデザイナーの育成に努めておりましたが、1931年（昭和6）から39年（昭和14）にかけて、「時代衣裳を収集し、染織意匠の向上と優秀呉服の制作に資する」ことを目的に、染織史上において価値のある衣裳や裂地（きれじ）、雛形本など、数々の染織関連品を収集しました。それらを後世に残すため、1957年（昭和32）に当時としては最高レベルの空調・防災設備を備えた「染織参考館」を京都に建設し、貴重な文化財を大切に保存してまいりました。

その後、収蔵品は2010年（平成22）に松坂屋創業の地である名古屋へ移管され、その大部分はJ. フロントリテイリング史料館に引き継がれて「松坂屋コレクション」と呼ばれております。

J. フロントリテイリング史料館では、約1,500点の松坂屋コレクションを所有しており、そのうちの1点である「染分綸子地御所車花鳥文様繡箔小袖（そめわけりんずじごしょぐるまかちょうもんようぬいはくこそで）」は2011年（平成23）に重要文化財の指定を受けました。

このたび新たに指定を受ける運びとなった4点は、「**桃山～江戸時代初期の能装束で、形状を留めて残っている現存品は少ない。しかし、本件は非常に良好な状態で残っており、当時代の能装束の特徴をよく留めている点で貴重である**」との評価をいただきました。

文化財保護法の趣旨に則り、この貴重な国民的財産でもある文化財を今後も大切に保存していくとともに、できるだけ公開するなど文化的活用にも努めてまいります。

<J. フロントリテイリング史料館>

株式会社大丸松坂屋百貨店が保存・収集した史料等の文化的資産を未来へ継承し、学術文化の振興に寄与することを目的に、2011年に設立されました。

主な事業として、

- 呉服デザイン意匠・史料の維持管理及び公開・貸出・展示運営
- 大丸松坂屋百貨店（大丸・松坂屋）の創業・歴史に関する史料等の維持管理及び公開・貸出・展示運営などに取り組んでいます。



紺地菖蒲蓬菊桐文様小袖

(こんじしょうぶよもぎきくきりもんようこそで)

練緯（ねりぬき）という桃山時代の装束によく使用された生地、刺繍で菖蒲、蓬、菊を散らすように配す。刺繍は、撚りをかけない釜糸という絹の糸を用いる。柔らかく浮いた渡縫いと、文様の途中で色を変える刺繍表現は、桃山時代の装束の特徴を示す。袖に振りがあることから、子方用の装束として用いられたと考えられる。旧裏地には「金春志て」と墨書きがある。形状、加飾技法ともに同時代の特徴をよく残し、きわめて良好な状態である。



萌黄地紋入格子縞藤文様片身替厚板

(もえぎじもんいりこうししまぶじもんようかたみがわりあついた)

厚板とは、男性用の着付けのことである。本厚板は、室町時代から桃山時代にかけて流行した片身替わりの文様構成で、背面右身頃は格子文様、左身頃は縞に藤の花房文様を織表す。格子文様は、緑、青、白、黄、紫の糸を用いる。また縞文様は、緑と白の糸を用い、縞と藤の花房を華麗に織表す。旧裏地には「八金」の黒文分銅印が押されている。



薄黄地紋入格子鱗文様肩裾厚板

(うすきじもんいりこうしろうこもんようかたすそあついた)

肩裾に格子文様、腰明き部分に鱗文様を織表す。格子文様は浮紋織で、多彩な色糸を用いて表す。鱗文様は茶色、黄色の糸を用いる。仕立て替えがされており、身頃の丈が縫い詰められている。縫い詰めた分の裂は、袖の振りに縫い足されており、袖は製作された当初の丈よりも 15.5 センチメートル長くなっている。本来は成人用であったものを子方用に仕立て替えて用いたと推定される。裏地には「八金」の黒文分銅印が押されている。



茶地紋入格子文様厚板

(ちゃじもんいりこうしもんようあついた)

全体に浮紋織で格子文様を表す。さらに、格子文様の縦筋と横筋の交差する部分には、花菱文様を表す。身幅と袖幅から、江戸時代初期の厚板と考えられる。表裏ともに仕立て替えがされており、特に袖の部分にその痕跡が認められる。仕立て替えを行いながらも大切に用いられたことが窺える。

この件に関するお問い合わせ先

J.フロントリテイリング史料館

河村

TEL : 052-264-7900

FAX : 053-264-7067

J.フロントリテイリング広報担当

五味

TEL : 03-6895-0816

e-mail : kouhou@jfr.co.jp

<ご参考>

名古屋店南館7階の「史料室」では、松坂屋の歴史についての企画展を継続的に行っており、時期によっては一部の松坂屋コレクションを展示しております。

現在は「松坂屋コレクション 小袖の模様－花」を開催中で、江戸中期の貴重な小袖など（重要文化財指定の1点、今回指定を受ける運びとなった4点は含まれておりません）を一般公開しております。

松坂屋 史料室 企画展 Vol.32

松坂屋コレクション

小袖の模様－花

平成30年2月24日(土)→5月29日(火) 休館日:4月11日(水)

前期:2月24日(土)→4月10日(火) / 後期:4月12日(木)→5月29日(火)

今日のきものの原形である小袖は、平安時代には下着としての存在でした。その後、鎌倉時代から室町時代へ表着として用いられるに従い、白・単色のものから彩色、模様をおび、服飾の表面へと進化してきました。

小袖の模様には、時代ごとの流行や、四季を彩る動植物・自然風景模様、吉祥模様、器物模様など多彩な模様世界が描かれています。

今後は、このような模様を紹介してまいります。

今回は、その第1回展として、花をテーマに、松坂屋コレクションの植物模様の中から花模様の小袖、裂地を紹介いたします。

いっせいに咲き誇る姿から「繁栄」「豊かさ」を意味し、日本の国花である“桜”、小さな丸いつぼみから大輪の花を咲かせることから「豪華」「幸福」「富貴」を表す百花の王“牡丹”、万葉集や源氏物語にも度々登場し、古くから日本文化に馴染み深い“山吹”等が、刺繍や鹿子、白上げ、友禅染などにより表情豊かに表されています。

併せて、その模様や技法、配色などを記した江戸時代のスタイルブックともいべき雛形本も展覧いたします。



衣装 前期展示

あさ は しだ ざくら もようこそで
麻の葉に桜垂れ桜模様小袖 (江戸中期)

こいもえぎいろ ちりめんじ
濃萌葱色の縮緬地に、麻の葉と桜垂れ桜が描かれた小袖。麻の葉と桜を、白上げ、染、色糸・金糸の刺繍で表した友禅染の小袖です。(花模様＝桜)

※萌葱色とは、平安時代から用いられた色名で
萌え出る葱の芽のような緑色のこと。
※白上げとは、糊防染や絞りなどで模様を
白く表す技。



さくら もじ もようこそで
桜に文字模様小袖 (江戸中期)

ときいろ りんすじ
鴛色の輪子地に、桜と文字を散らした小袖。桜が立木風に型鹿子と白上げ色糸・金糸の刺繍により表され、白上げと金糸の刺繍により肩に散らされた文字は、「君かちと」「そめし」「袂の香を」「すれ」で、「華の色に染めし袂の香を添えて君が千歳を祝いこそすれ」の一首であると考えられます。(花模様＝桜)



やらい ざくらおづもようこそで
矢来に桜扇模様小袖 (江戸中期)

うこんいろ りんすじ
鬱金色の輪子地に、桜・矢来・扇が描かれた小袖。型鹿子で桜の樹と矢来を表し、桜の花と扇面が型鹿子と色糸・金糸の刺繍の技で表されています。
(花模様＝桜)

※鬱金色とは、鬱金香の根で染めた色をさし、赤みを帯びた鮮やかな黄色のこと。
※型鹿子とは、型紙を置き、刷毛で染液を置くことによって、鹿子絞りのような模様を付ける技法。



まつしだ ざくら けまり もようこそで
松枝垂れ桜に蹴鞠模様小袖 (江戸後期)

あさぎ ちりめんじ
浅葱・薄紫色の縮緬地に、松・枝垂れ桜・蹴鞠が描かれた小袖。肩から腰までを浅葱色と、裾を薄紫色に染め分け、松と枝垂れ桜、蹴り上げられた蹴鞠が色挿しと色糸・金糸の刺繍で表されています。
(花模様＝桜)

※浅葱色とは、薄い葱の葉にちなんで
薄い藍色のこと、平安時代からの伝統色。





衣装 後期展示

りゅうすい やまぶき も ようこそで
流水山吹模様小袖 (江戸中期)

白色の輪子地に、流水と山吹が描かれた小袖。腰から裾にかけて流水に山吹の模様、腰から肩にかけては山吹のみが、型鹿子と色糸・金糸の刺繍で表されています。(花模様=山吹)

※型鹿子とは、型紙を置き、刷毛で染液を摺ることによって、鹿子紋のような模様を付ける技法。



ひおうぎ ぼたん も ようこそで
檜扇に牡丹模様小袖 (江戸前期)

白色の輪子地に、檜扇と牡丹が描かれた小袖。紅と藍色の鹿子紋により檜扇と、萌葱色の絞りと色糸・金糸の刺繍により牡丹が表された小袖です。(花模様=牡丹)

※萌葱色とは、平安時代から用いられた色名で、萌え出る葱の芽のような緑色のこと。



りゅうすい やまぶき も じ ち ようこそで
流水山吹に文字模様小袖 (江戸中期)

玉子色の縮緬地に流水と山吹、文字模様が色糸・金糸の刺繍、友禅染により表された小袖。肩から袖にかけて紅糸と金糸で表された文字は、この模様が『古今和歌集』『いまもかもさき匂ふらんだち花の こしまのさきの山吹の花』を表すことを示しています。(花模様=山吹)



まがき ぼたん せんめん か き も ようこそで
籬に牡丹と扇面花卉模様小袖 (江戸中期)

白色の紗綾地に、腰から上は籬に牡丹、裾には流水に浮かぶ扇面が表された小袖。扇面には菊、薊、杜若、梅と、扇面の背後には秋海棠が描かれた友禅染めの小袖です。(花模様=牡丹、菊、薊、杜若、梅)

※紗綾とは、平織りの地に綾織りで文様を織り出した光沢のある絹織物。紗綾形の地紋が特徴。



裂地

前期展示

さくらやなぎもよう ふくさ
桜柳模様 帛紗 (江戸前期)

鬱金色の紵地に、桜、柳が描かれた帛紗。色糸・金糸の刺繍の技で表されています。(花模様=桜)

※紵地とは、経糸緯糸5本以上から構成される絹子織で、光沢があり、表面がなめらかな絹織物。



後期展示

てっせん すずりばこ も よう ふくさ
鉄線に硯箱模様 帛紗 (江戸前期)

白色の輪子地に、鉄線、硯箱が色糸・金糸の刺繍の技で表された帛紗。鉄線とは中国が原産の夏期に咲く花で、茎が細く硬いため鉄の名が付いたとされます。(花模様=鉄線)



雛形本

雛形本とは、流行の小袖模様や意匠を描いた木版刷りの冊子です。寛文期(1661~73)以降につくられ、江戸中期を最盛期として数多く刊行されました。江戸時代のスタイルブックとでもいうべき小袖雛形本は、小袖の背面図を中心に、文様や技法、配色などを記すのが一般的な形式でした。出版された総数については諸説ありますが、再版を含むと200種弱ともいわれています。松坂屋はその約半数を所蔵しており、コレクションとしては最大級です。

ひながた つぎはざくら
雛形 接穂桜
宝暦8(1758)年
(花模様=鉄線・梅)



ひながた たつたがわ
雛形 竜田川
寛保2(1742)年
(花模様=菊・杜若)



この件に関するお問い合わせ先

J.フロントリテイリング史料館
松坂屋名古屋店 広報担当

河村 TEL : 052-264-7900 FAX : 052-264-7067
山田 TEL : 052-264-7471 FAX : 052-264-3197